

令和3年度
埼玉学園大学大学院
心理学研究科 FD 活動報告書

令和4年7月13日
心理学研究科
FD委員会

目 次

1	はじめに	1
2	FD活動に関する基本方針	
2-1	FD委員会の委員構成	2
2-2	FD委員会の開催日及び議題	2
3	心理学研究科教育体制	
3-1	教育方針（ポリシー）	3
3-2	3ポリシーの検証	4
3-3	教育実施体制	5
4	大学院生による授業アンケート	
4-1	授業アンケート実施概要	13
4-2	授業アンケート実施結果	13
5	教員による授業報告	23
6	研究発表会及び意見交換会	
6-1	研究発表会	27
6-2	大学院専任教員と客員教員及び大学院生による意見交換会	27
7	論文審査について	
7-1	修士論文中間報告会	28
7-2	学位論文発表会及び最終試験	29
8	おわりに	29
	参考資料	
1	埼玉学園大学大学院FD委員会規程	30
2	授業についてのアンケート(様式)	31
3	教員の授業報告(様式)	32

1 はじめに

埼玉学園大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻は、平成 26 年度に臨床心理士養成のために開設されました。その目的は、高度かつ実践的な臨床心理学の専門知識を習得し、対人技術能力を培い、教育、福祉及び医療などの領域において、国民の生涯にわたる持続的な福祉と心の健康を支えることに寄与するところであり、本学の教育理念である「広く社会に貢献できる人材を養成」に沿うものである。

なお、現在は国家資格である公認心理師の養成プログラムに対応したカリキュラムを開講しています。

本心理学研究科における大学院教育が当初の教育目標を十分達成されたかどうかを検証することと、もし不十分な点があれば早急に改善を図り、さらに本研究科教育を充実したものにするために、埼玉学園大学大学院心理学研究科 F D 活動報告書を作成している。

2 FD活動に関する基本方針

心理学研究科におけるFD委員会の基本方針と役割、FD委員会規程については、当初の通りで変更はない。
(参考資料1) 令和3年度のFD委員会の構成員は、以下の通りである。

2-1 FD委員会の委員構成

委員等	所属・職名	氏名
委員長	FD委員長	小玉 正博
委員	心理学研究科教授	安崎 文子
委員	心理学研究科教授	古澤 照幸
委員	心理学研究科准教授	川久保 惇
委員	心理学研究科講師	泉水 紀彦
委員	心理学研究科兼任教員	尾形 和男

2-2 FD委員会の開催日及び議題

令和3年度に開催された委員会の日時と議題は以下の通りである。

【令和3年度 FD委員会の開催日及び議題】

開催日	議題
令和3年 7月14日	(1) 令和3年度研究発表会の実施について (2) 令和3年度教育研究に関する意見交換会の実施について
令和3年 11月10日	(1) 令和3年度研究発表会の報告について (2) 令和3年度意見交換会の報告について (3) 令和2年度FD活動報告書について
令和4年 2月9日	(1) 令和4年度のFD活動について (2) 令和3年度のFD活動及び自己点検評価活動報告について (3) 令和3年度取組実績及び令和4年度取組・改善計画の策定について

3 心理学研究科教育体制

3-1 教育方針（ポリシー）

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学研究科では、人間の心と行動についての深い理解と科学的思考を身につけ、臨床的態度と専門的技法をもって人々に心理的援助のできる人材の養成を目的としています。このため、学位授与の要件としては、学生に次のような能力の修得を求めます。

- ① 学生が臨床心理士資格試験に十分臨める水準の臨床心理学的知識と臨床的实践力を修得していること。
- ② さらに、実践家・研究者モデルに沿って、臨床場面で起こる事象への科学的理解と理論的洞察を支えるための研究スキルが備わっていること。

これらの観点を踏まえて、以下の要件を満たしているときは、修了を認め、修士（臨床心理学）の学位を授与します。

大学院に2年以上在学し、履修要件に定める授業科目を履修し、専門科目35単位（必修25単位を含む）以上、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」各4単位の合計43単位以上を修得し、かつ修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格すること。本研究科は、文部科学省・厚生労働省の公認心理師法の定める必要科目を履修することにより、公認心理師の受験資格が得られます。

また、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院となっており、学位の取得により、臨床心理士の受験資格が得られます。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学研究科では、自立した心理支援専門家として、個人及び組織・地域からの援助希求に対して高い共感性とコミュニケーション能力を持ち、十分な心理社会的援助能力を修学することを目標としたカリキュラムを編成します。

具体的には、①心理臨床活動を展開するための実践力を養成する「基幹科目群」、②臨床心理学の知識と方法論をより高度化、深化する「基礎科目群」、③支援対象者の特徴を理解し、それに応じた援助法を修得する「発展科目群」、④修士論文作成のための高度な研究実践能力を学習する「特別課題研究」の4領域によって編成されます。

教育課程編成の目的を効果的に実現するために、教育方法として、通常の講義形式のほか、事例研究方式、課題討論方式、ロールプレイ、グループワークを含む模擬実習など、具体的かつ実践的な体験学習を多く組み入れます。

なお、カリキュラム編成においては、文部科学省・厚生労働省の定める公認心理師法の必要科目を履修し、達成すべき到達目標を実現するように配置されています。さらに、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会による指定要件を踏まえて臨床心理士養成指定大学院一種の認定を受けています。

III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学研究科では、人間の心の問題に対応する実践的な人材として高い専門性と臨床的立場でのコミュニケーション能力および問題解決能力を重視する教育を目指します。本研究科の修了生には、公認心理師や臨床心理士としての活躍が期待されており、入学生には、学修成果の達成に必要な基礎的な知識・能力と明確な目的意識が求められます。

このため、本研究科では、次のような方法で入学者の選抜を行います。

【選抜試験】

- ① 入学後の研究課題と問題意識を明らかにした研究計画書を提出させる。
- ② 設置している科目の履修に必要な基礎知識を量るため、専門科目（心理学）と英語に関する筆記試験を行う。
- ③ 書類選考及び口述試験により、公認心理師や臨床心理士としての人間的資質を確認する。

本研究科は、研究奨励目的に成績優秀な学生に、選考により最大2年間にわたり、返還のない奨学金制度を備えています。

3-2 3ポリシーの検証

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学研究科は、心の健康を支援する人材の養成を目的として、人間存在に対する深い理解と科学的思考を身につけ、心理支援者として期待される臨床的態度と専門的技法の習得を目指している。より具体的には、①公認心理師資格試験と臨床心理士資格試験に十分臨める水準の臨床心理学的知識と臨床実践力を修得していること、②実践家・研究者モデルに沿って、臨床場面で起こる事象への科学的理解と論理的洞察を支える研究スキルが備わっていることの二点である。

上記目標の達成は、学内・学外の臨床実習と平行して、特別課題研究の修士論文作成にも取り組む必要があることから、学生にとって心身および時間的負担が大きい課題である。そのための指導体制として、学生一人ひとりに臨床指導教員と研究指導教員を置き、それぞれ連携協力しながら指導を行っている。さらに研究指導では主指導教員と副指導教員を置き、指導体制の充実を図っている。すなわち、一人の学生に対して複数の教員が責任をもってかわり、心身の状態に考慮しながら教育指導にあたることで、院生の学修を支援している。

令和3年度の本研究科修士生は2名であったが、両名ともに臨床実習と修士論文作成に意欲をもって取り組み、高い水準で成果を上げたと評価することができる。修了後の進路としても、児童発達支援領域での常勤就職、および産業領域での常勤雇用を見通した就職を果たしており、質の高い心理支援者を輩出している研究科としての実績を残している。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

心理学研究科では、自立した心理支援専門家として高い共感性とコミュニケーション能力を持ち、十分な心理社会的援助能力を修学することを目標としたカリキュラムを編成している。具体的には、①心理臨床活動を展開するための実践力を養成する「基幹科目群」、②臨床心理学の知識と方法論をより高度化、深化する「基礎科目群」、③支援対象者の特徴を理解し、それに応じた援助法を修得する「発展科目群」、④修士論文作成のための高度な研究実践能力を学習する「特別課題研究」の4領域である。すなわち、十分な臨床実践力と科学的思考を備えた、個人・集団・社会の要請に応える心理支援者を養成するための体系的な教育課程を編成している。

なお、本研究科は、臨床心理士ならびに公認心理師養成の指定科目に対応しており、基礎から応用へと学修を積み上げ、かつ多様な心理支援領域への展開を可能とすべく科目を配置している。令和3年度の修士生は、いずれもそれぞれが希望する領域へと就職しており、多様な領域へと人材を輩出している教育内容を備えていることが示されている。

III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学研究科は、公認心理師、臨床心理士として心の健康を支援する人材の養成を目的としている。そのため、入学生には学修成果の達成に必要な基礎的知識や論理的思考力、および明確な目的意識と学修に取り組む準備状態としての心身の安定性を求めており、次のような方法で入学者の選抜を行っている。

一般選抜入学試験（一般学生・社会人・外国人留学生）では、①研究計画書の提出、②専門科目（心理学）と英語に関する筆記試験、③心理支援者としての人間的資質および適性について書類選考及び口述試験による確認を行う。令和3年度に一般選抜で入学した学生は2名である。両名ともに入学後に意欲的に学修に臨み、確実に学修プロセスを進めていることから、一般選抜入学試験は適正に実施されたと評価することができる。

令和3年度入試より、学内選抜入学試験（本学の学生を対象）でも筆記試験（専門科目（心理学）と英語）を課すこととなった。心理学科1期生の卒業生を迎える年度であり、大学院での学修に向けた準備状況を学外からの志願者と同様に精査するための変更であった。すなわち、一般選抜と同様に、①研究計画書の提出、②専門科目（心理学）と英語に関する筆記試験、③心理支援者としての人間的資質および適性について書類選考及び口述試験が課された。結果として、1名の志願者があったが、合格水準には至らずに不合格の判断となった。学部段階での教育についての見直しと志願者支援方策の必要性を示唆する結果となったが、大学院入試としては公平かつ適正な選抜へと修正がなされたと評価することができる。

（大川 一郎・佐々木 美恵）

3-3 教育実施体制

令和3年度は、専任教員及び客員教員を併せて、17名の教員で授業・研究指導を行った。それぞれの詳細は、次の通りである。

3-3-1 専任教員

No.	氏名	職位	学位
1	小玉 正博	教授	医学博士
2	藤枝 静暁	教授	博士(心理学)
3	安崎 文子	教授	博士(障害科学)
4	杉山 雅宏	教授	博士(心理学)
5	古澤 照幸	教授	博士(心理学)
6	遠藤 寛子	准教授	博士(心理学)
7	川久保 惇	准教授	博士(心理学)
8	佐々木美恵	准教授	博士(生涯発達科学)
9	羽鳥 健司	准教授	博士(心理学)
10	米村 朋子	准教授	博士(心理学)
11	伊里 綾子	講師	博士(心理学)
12	泉水 紀彦	講師	博士(心理学)

合計12名

3-3-2 客員教員/兼任教員

No.	氏名	職位	学位
1	柴田 勲	教授	—
2	山本 晴義	教授	博士(医学)
3	古曳 牧人	准教授	修士(文学)
4	尾形 和男	兼担	博士(教育学)
5	増南 太志	兼担	博士(行動心理学)

合計5名

3-3-3 担当授業科目・研究指導

各教員の担当授業は、以下の通りである。

埼玉学園大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻修士課程 授業科目及び担当教員

科目区分	科目名	担当教員
基幹科目群	臨床心理学特論Ⅰ	小玉 正博
	臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	羽鳥 健司
	臨床心理面接特論Ⅱ	杉山 雅宏
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	佐々木美恵
	臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子
	臨床心理基礎実習Ⅰ	藤枝 静暁/伊里 綾子
	臨床心理基礎実習Ⅱ	杉山 雅宏/佐々木美恵
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	羽鳥 健司/泉水 紀彦
	臨床心理実習Ⅱ	小玉 正博/遠藤 寛子
基礎科目群	データ解析法特論	米村 朋子
	臨床心理学研究法特論	米村 朋子
	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	尾形 和男
	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	増南 太志
	人間関係学特論	古澤 照幸
発展科目群	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	山本 晴義
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	柴田 勲
	犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	古曳 牧人
	健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	泉水 紀彦
	心理療法特論	羽鳥 健司
	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	安崎 文子
	学校臨床心理学特論	杉山 雅宏
	グループ・アプローチ特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	藤枝 静暁
	産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	川久保 惇
研究指導	特別課題研究Ⅰ・Ⅱ	小玉正博/藤枝静暁/杉山雅宏/ 古澤照幸/遠藤寛子/佐々木美恵/ 羽鳥健司

3-3-4 カリキュラム

本研究科の教育課程の具体的な目標は、高度かつ実践的な心理学の専門知識の習得と対人技術能力の育成にある。より具体的にはさまざまな心理的問題を抱える人に深く関わる共感能力と質の高いコミュニケーション能力を有し、そうした資源を駆使して、個人及び組織・地域からの援助希求に対して個人的な心理支援とともに組織的で協働的な心理的支援ができる公認心理師、臨床心理士の養成である。

これらの目的を達成するために、「基幹科目群」、「基礎科目群」、「発展科目群」、「研究指導」の4科目群で教育課程を編成している。具体的な編成は以下の通りである。

【教育課程の概要 心理学研究科 修士課程】

学位又は称号	修士（心理学）	学位又は研究科の分野	心理学関係	
卒業要件及び履修方法			授業時間等	
必修科目 33 単位を含め、43 単位以上を修得し、かつ、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）の時間は 450 時間以上とする。			1 学年の学期区分	2 学期
			1 学期の授業期間	15 週
			1 時限の授業時間	90 分

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習
基幹科目群	臨床心理学特論Ⅰ	1	2			○		
	臨床心理学特論Ⅱ	1	2			○		
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1	2			○		
	臨床心理面接特論Ⅱ	1	2			○		
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1	2				○	
	臨床心理査定演習Ⅱ	1	2				○	
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	1					○
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	1					○
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	1・2	10					○
基礎科目群	臨床心理実習Ⅱ	2	1					○
	臨床心理学研究法特論	1・2		2		○		
	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	人間関係学特論	1・2		2		○		
発展科目群	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	1・2		2		○		
	心理療法特論	1・2		2		○		
	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
	学校臨床心理学特論	1・2		2		○		
	グループ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2		2		○		
	産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2		○		
研究指導	特別課題研究Ⅰ	1	4				○	
	特別課題研究Ⅱ	2	4				○	

3-3-5 時間割表

令和3年度 埼玉学園大学大学院 心理学研究科時間割表

【春期】																
時限	月			火			水			木			金			
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	
1限 9:00 ～ 10:30							教育心理学特論 (教育分野に関する 理論と支援の展開)	尾形 和男	研修員室	臨床心理基礎実習Ⅰ	藤枝 静曉 伊里 綾子	研修員室				
2限 10:40 ～ 12:10				障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する 理論と支援の展開)	安崎 文子	研修員室	発達心理学特論 (教育分野に関する 理論と支援の展開)	増南 太志	研修員室	臨床心理基礎実習Ⅰ	藤枝 静曉 伊里 綾子	研修員室				
3限 13:00 ～ 14:30	犯罪・非行心理学特論 (司法・犯罪分野に関する 理論と支援の展開)	古鬼 牧人	研修員室	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関 する理論と実践)	佐々木美恵	研修員室				臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する 理論と実践)	羽鳥 健司	研修員室				
4限 14:40 ～ 16:10				学校臨床心理学特論	杉山 雅宏	研修員室				臨床心理学特論Ⅰ	小玉 正博	研修員室	データ解析法特論	米村 朋子	研修員室	
5限 16:20 ～ 17:50										臨床心理実習Ⅱ	小玉 正博 連藤 夏子	研修員室				
6限 18:10 ～ 19:40										臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	羽鳥 健司 泉水 紀彦	研修員室				
7限 19:45 ～ 21:15										臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	羽鳥 健司 泉水 紀彦	研修員室				
1) 「特別課題研究Ⅰ」、「特別課題研究Ⅱ」は、主指導教員と院生との協議により、時間を決めて行うこととする。																
【秋期】																
時限	月			火			水			木			金			
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	
1限 9:00 ～ 10:30	人間関係学特論	古澤 照幸	研修員室				精神医学特論 (保健医療分野に関する 理論と支援の展開)	柴田 勲	研修員室	臨床心理基礎実習Ⅱ	杉山 雅宏 佐々木美恵	研修員室				
2限 10:40 ～ 12:10				臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵	研修員室	臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子	研修員室	臨床心理基礎実習Ⅱ	杉山 雅宏 佐々木美恵	研修員室	グループ・アプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会 における心理支援に関する理 論と実践)	藤枝 静曉	411	
3限 13:00 ～ 14:30				臨床心理面接特論Ⅱ	杉山 雅宏	研修員室							産業組織心理学特論 (産業・労働分野に 関する理論と支援の展開)	川久保 惇	研修員室	
4限 14:40 ～ 16:10										心理療法特論	羽鳥 健司	研修員室	臨床心理学研究法特論	米村 朋子	研修員室	
5限 16:20 ～ 17:50										臨床心理実習Ⅱ	小玉 正博 連藤 夏子	研修員室	健康心理実践特論 (心の健康教育に 関する理論と実践)	泉水 紀彦	研修員室	
6限 18:10 ～ 19:40										臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	羽鳥 健司 泉水 紀彦	研修員室				
7限 19:45 ～ 21:15										臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	羽鳥 健司 泉水 紀彦	研修員室				
1) 「特別課題研究Ⅰ」、「特別課題研究Ⅱ」は、主指導教員と院生との協議により、時間を決めて行うこととする。																
集中講義																
科目名		担当者	教室	内 容												
心身医学特論		山本 晴義	研修員室	10/20, 11/10, 11/17, 11/24, 12/1, 12/15の4～5時限目、12/22の4時限目												

3-3-6 院生数

今年度（令和3年5月1日現在）本学大学院に在籍する院生の詳細は、以下の通りである

総数、入試形態別人数、年齢別人数、男女別人数

① 総数 7名

② 入試形態別人数（名）

	一般選抜	学内選抜
修士課程1年	2	-
修士課程2年	3	2

③ 年齢別人数（名）

	22歳～25歳	26歳～30歳	31歳～35歳	36歳～40歳	41歳～
修士課程1年	2	-	-	-	-
修士課程2年	4	1	-	-	-

④ 男女別人数（名）

	男性	女性
修士課程1年	1	1
修士課程2年	2	3

3-3-7 研究題目一覧

<修士課程1年>（修士論文中間報告会発表会時点：令和3年10月27日）

- ・教師の褒めと生徒の学校満足感との関連
- ・教職員と養護教諭の職務認知及び職務観の違いについて
- ・システムエンジニアを対象とした仕事遂行を支援するソーシャルスキルの解明

<修士課程2年>（修士論文発表会時点：令和4年2月10日）

- ・母親を対象とした子ども時代のポジティブな経験と状態被援助志向性の関連に関する調査研究
ー育児感情、ソーシャルサポートを媒介変数としてー
- ・対人関係における適応的な諦めが問題への直面化と精神的健康に及ぼす影響

3-3-8 履修状況

履修状況及び定期試験実施方法は、次の通りである。

【春期】

科目名	担当者	受講者数
臨床心理学特論Ⅰ	小玉 正博	2
臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	羽鳥 健司	2
臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	佐々木美恵	2
臨床心理基礎実習Ⅰ	藤枝静暁/伊里綾子	3
データ解析法特論	米村 朋子	2
教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	尾形 和男	2
発達心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	増南 太志	3
犯罪・非行心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	古曳 牧人	2
障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	安崎 文子	2
学校臨床心理学特論	杉山 雅宏	2

【秋期】

科目名	担当者	受講者数
臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵	3
臨床心理面接特論Ⅱ	杉山 雅宏	3
臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子	3
臨床心理基礎実習Ⅱ	杉山雅宏/佐々木美恵	3
臨床心理学研究法特論	米村 朋子	3
心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	山本 晴義	3
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	柴田 勲	3
健康心理実践特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	泉水 紀彦	3
心理療法特論	羽鳥 健司	3
グループアプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	藤枝 静暁	3
産業・組織心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	川久保 惇	3

【通年】

科目名	担当者	受講者数
臨床心理実習Ⅰ（心理実践演習）	羽鳥健司/泉水紀彦	3
臨床心理実習Ⅱ	小玉正博/遠藤寛子	2
特別課題研究Ⅰ	藤枝 静暁	1
	杉山 雅宏	2
特別課題研究Ⅱ	小玉 正博	1
	藤枝 静暁	1

3-3-9 定期試験

博士前期課程

【春期】

科目名	担当者	試験内容
臨床心理学特論Ⅰ	小玉 正博	筆記試験
障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	安崎 文子	レポート
学校臨床心理学特論	杉山 雅宏	レポート
教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	尾形 和男	レポート
発達心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	増南 太志	レポート
臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	羽鳥 健司	レポート
犯罪・非行心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	古曳 牧人	レポート
データ解析法特論	米村 朋子	レポート

【秋期】

科目名	担当者	定期試験
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	柴田 勲	筆記試験
臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵	筆記試験
臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子	レポート
心理療法特論	羽鳥 健司	レポート
健康心理実践特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	泉水 紀彦	レポート
産業・組織心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	川久保 惇	レポート
グループアプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する 理論と実践)	藤枝 静暁	レポート
臨床心理学研究法特論	米村 朋子	レポート

3-3-10 実習について

実習については、2年次の履修科目である「臨床心理実習Ⅱ」の学外実習を視野に置きながら、1年次の「臨床心理基礎実習Ⅰ(心理実践実習)」の課外ワークとして、「埼玉学園大学臨床心理カウンセリングセンター(以下カウンセリングセンターとする)」での学内実習と学外の保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野に関する施設において、見学等による実習を行った。

なお、コロナ渦における感染予防対策上、現地での実習が難しい施設においては、実習担当者に来校していただき、現場実習に替わる講義をお願いした。

カウンセリングセンターでは、受付業務の研修を行い、相談事例のケースマネジメントを学ぶ。また、相談員とスーパービジョン契約を結び、学習状況によって「可」と判断された場合は担当事例の面接陪席、相談員の補助などを担当し、それに対する継続的なスーパービジョンを受けることにより、事例担当能力を習得する。その技能習得のため、毎週水曜日夕方に実施される受理会議や事例検討会への参加を義務づけた。

学外実習では、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野について臨床心理士が在職する教育・福祉・医療関係の各施設見学とケースワーク等にかかわる研修実習を行った。実習は、下表の15箇所で行われた。これらの活動については、「埼玉学園大学臨床心理学研究」第7巻の活動報告として掲載されている。

【臨床心理実習先一覧】

分野	実習施設
保健医療	横浜労災病院メンタルヘルスセンター ひがメンタルクリニック かたやまクリニック 川口市立医療センター
福祉	こどもの心のケアハウス嵐山学園 荒川区立心身障害者福祉センター荒川たんぽぽセンター 児童養護施設 埼玉育児院 児童発達支援・放課後等デイサービス Moi！東所沢駅前教室
教育	川口市立教育研究所 朝霞市子ども相談室・適応指導教室 志木市立教育サポーターセンター 越谷市教育委員会学校教育部教育センター
司法・犯罪	さいたま保護観察所
産業・労働	ティーペック株式会社 株式会社アドバンテッジリスクマネジメント

4 大学院生による授業アンケート

4-1 授業アンケート実施概要

令和3年度春期における授業を対象として7月に、秋期における授業を対象として12月に、院生への授業アンケートを実施した。対象科目は2名以上の講義科目である。

実施時期

春学期：令和3年7月5日（月）～ 7月16日（金）

秋学期：令和3年12月6日（月）～ 12月17日（金）

実施方法

春学期・秋学期ともに、科目担当者がアンケート用紙を配布（参考資料2）、実施した。回答形式は、設問に対する自由記述式としている。回答用紙の回収については、院生が回収し、事務に提出することとした。

回答学生数

春学期：アンケート回収数 21 / 履修者数（延べ人数） 31 （回収率 68%）

秋学期：アンケート回収数 16 / 履修者数（延べ人数） 16 （回収率 100%）

実施結果

結果は次項からの記載内容の通りであるが、全般的にきわめて満足のいく結果を得ることができた。授業アンケート用紙は参考資料として掲載している。

4-2 授業アンケート実施結果

心理学研究科 修士課程

【春期】 授業アンケート実施期間：令和3年7月5日（月）～ 7月16日（金）

【春期 授業アンケート】

【臨床心理学特論Ⅰ】(小玉 正博)

7月8日（木）4時限 履修者数2 提出者数2

- 1.この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・臨床面接や心理学の学びのため。・興味があったから。
- 2.この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・心理についての基礎的なお話を聞いたこと。
 - ・他の授業内では聞いていないような内容を知れたこと。
- 3.全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できました。(複数回答)
- 4.この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・ありがとうございました。・特にありません。

以上

【臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）】(羽鳥 健司)

7月8日（木）3時限 履修者数2 提出者数2

- 1.この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・心理療法について学びたかったから。
 - ・必修科目であることと、面接の理論を学ぶため。
- 2.この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・多種多様な療法を知れたこと。
 - ・C B Tの考え方をよく知れたこと。
- 3.全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できました。(複数回答)
- 4.この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特にありません。
 - ・ありがとうございました。

以上

【春期 授業アンケート】

【データ解析法特論】(米村 朋子)
7月8日(木) 2時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・楽しそうだから。
 - ・修論を作成するにあたり、必要であったから。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・統計が役に立ちました、これから研究ができる気がしてきました。
 - ・統計処理の仕方を学べたことがよかったです。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・すごく満足できました。
 - ・満足できました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・ありがとうございました。
 - ・特にありません。

以上

【教育心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)】(尾形 和男)
7月7日(水) 1時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・教育心理学を学びたかったため。・教育に関することだったから。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・教育上の問題点を知れました。・学校現場のリアルを知れたこと。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できた。(複数回答)
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特にありません。

以上

【春期 授業アンケート】

【発達心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)】(増南 太志)

7月14日(水) 2時限 履修者数3 提出者数3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・人間の発達について学びたかったから。 ・人間の発達に興味があったから。
 - ・楽しそうと感じたため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・青年期のことについて研究したいため、青年期以降の発達について、よく理解することができました。
 - ・発達について知れたこと。(複数回答)
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できました。(複数回答)
 - ・青年期以降の発達については、学部で学ぶ機会がすくなかったため。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・ありがとうございました。・特にありません。(複数回答)

以上

【犯罪・非行心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)】(古曳 牧人)

7月5日(月) 3時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・楽しそうだから。 ・興味があったから。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・DSM-5について知れたこと。
 - ・子どもを対象とした研究を行う予定ですが、大人についても絡めて学べたので、視野が少し広がりました。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できました。
 - ・満足できました、楽しかったです。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし。

以上

【春期 授業アンケート】

【障害者（児）心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)】(安崎 文子)
7月6日(火) 2時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・心理学の基礎力をつけるため。
 - ・自分の将来のために知っておきたい内容だったため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・各障がいへの症例や検査法、英語などを知れたこと。
 - ・子ども（学校現場）について研究するつもりなので、多様な子どものあり方を知れたこと。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できました。 ・とても満足できました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし。

以上

【学校臨床心理学特論】(杉山 雅宏)

7月8日(木) 2時限 履修者数2 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・学校について知りたかったため。 ・学校に関する内容だったため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・学校の臨床について知りたかったため。 ・学校現場の事を知れたこと。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できた。(複数回答)
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・ありがとうございます。 ・特になし。

以上

【春期 授業アンケート】

【障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）】（増南 太志）

8月5日（水）1時限 履修者数4 提出者数2

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・心理職として働くうえで、福祉領域はもちろん、どの領域で活動する中でも非常に重要な分野であるため。
 - ・必修科目のため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・障害を持つ人がどのような困り感を持っていて、どんなニーズがあるかを理解できたので、その点も研究に取り入れたいと思った。
 - ・濃度の差こそあれ、多かれ少なかれ、障害的な要素を抱えている人間は多く、個別に理解していくことの重要性に気づけた。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・非常に満足できた。
 - ・障害に対する知識は浅かったので非常に勉強になりました。
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特になし。

以上

【秋期】 授業アンケート実施期間：令和3年12月6日（月）～ 12月17日（金）

【秋期 授業アンケート】

【臨床心理学特論Ⅱ】（佐々木 美恵）

12月 14日（火） 2時限 履修者数3 提出者数3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・学びを得たいため。
 - ・興味があったから。
 - ・必修のため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・面接の話、精神分析の話が勉強になった。
 - ・様々な障害について知れたことなど。
 - ・1つ1つの障害や社会的問題について理解することができた。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できた。（複数回答）
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特にありません。ありがとうございました。

以上

【秋期 授業アンケート】

【臨床心理面接特論Ⅱ】(杉山 雅宏)

12月 14日(火) 3時限 履修者数3 提出者数3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・受けたかったため。 ・興味があったから。 ・必修のため。(複数回答)
 - ・研究指導をして頂くため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・役立った。
 - ・幅広い知識を得られたこと。
 - ・発表だったので、知りたいものを調べることができて知識が深まった。
 - ・周りの意見を聞いて、自分の考えていなかった意見に役に立った。
 - ・多角的視点で研究を進められたこと。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できた。(複数回答)
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・ありがとうございました。
 - ・特にありません。

以上

【臨床心理基礎実習Ⅱ】(杉山 雅宏、佐々木 美恵)

12月 16日(木) 2時限 履修者数3 提出者数3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・興味があったから。 ・受けたかったため。 ・必修のため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・インテーク面接のやり方から、倫理などについてまで深く知れたこと。
 - ・役に立ちました。
 - ・インテーク面接のロールプレイをして、今後のケースに入るために役に立った。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できました。(複数回答)
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特にありません。
 - ・ありがとうございました。

以上

【秋期 授業アンケート】

【臨床心理学研究法特論】(米村 朋子)

12月 17日(金) 4時限 履修者数3 提出者数3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・楽しそうだから。 ・興味があったから。
 - ・質的研究について知りたかったから。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・役に立ちました。
 - ・質的研究法について理解が深まったこと。(複数回答)
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できました。(複数回答)
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・ありがとうございました。
 - ・特にありません。

以上

【心身医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)】(山本 晴義)

12月 15日(水) 3時限 履修者数3 提出者数3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・心身医学について学びたかったため。
 - ・精神疾患について興味を持ったため。(複数回答)
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・医学的知識が付きました。
 - ・1つ1つ精神疾患、知らなかったものもあったので勉強になった。
 - ・様々な事例を通して疾患について学べたこと。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できた。(複数回答)
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・水曜はつらかったです。

以上

【秋期 授業アンケート】

【精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）】（柴田 勲）

12月 15日（水） 1時限 履修者数3 提出者数3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・ 柴田先生の授業を受けたいから。
 - ・ 興味があったから。
 - ・ 精神疾患の薬について興味があったため。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・ 医学の知識
 - ・ 疾患の細かい部分や仕組みを知れたこと。
 - ・ 薬の知識がなかったため、知ることができた。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・ 満足できた。（複数回答）
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・ ありがとうございました。・ 特にありません。

以上

【健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）】（泉水 紀彦）

12月 17日（金） 1時限 履修者数3 提出者数3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・ 興味があったから。（複数回答）
 - ・ 楽しそうだから。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・ マインドフルネスなど精神（メンタル）の落ち着き方などを学べたこと。
 - ・ 自律訓練法について学ぶことができて、自分の健康管理方法を学べた。
 - ・ 役に立った。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・ 満足できた。（複数回答）
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・ 特にありません。（複数回答）
 - ・ ありがとうございました。

以上

【秋期 授業アンケート】

【心理療法特論】(羽鳥 健司)

12月 16日 (木) 3時限 履修者数3 提出者数3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・ CBTを知りたいから。 ・ 必修のため。 ・ 興味があったから。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・ 認知行動療法は、詳しく知らなかったので流れがよく分かりました。
 - ・ CBTについて導入から深くまで知れたこと。ロールプレイもあり分かりやすかったです。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・ 満足です。(複数回答)
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・ ありがとうございます。
 - ・ 特にありません。

以上

【グループアプローチ特論】(藤枝 静暁)

12月 14日 (火) 1時限 履修者数3 提出者数3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・ グループアプローチを学びたかったため。・ 必修のため。・ 興味があったから。
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・ 実践のスキル。
 - ・ SSTを学んだことがなかったので勉強になった。身に着けることができ自分のためにもなり良かった。
 - ・ CI役、ファシリテーター役の両方を体験できたことで、両者の気持ちや難しさを知れたこと。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・ 満足できた。(複数回答)
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・ ありがとうございます。 ・ 特にありません。

以上

【秋期 授業アンケート】

【産業組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）】（川久保 惇）
12月 10日（金） 3時限 履修者数3 提出者数3

1. この授業を履修した理由は何ですか。
 - ・興味があったため。（複数回答）
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。
 - ・色々な研究に触れることができたこと。 ・修論の役に立った。 ・大変役に立った。
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
 - ・満足できた。（複数回答）
4. この授業について、要望があれば記入してください。
 - ・特にないです。

以上

5 教員による授業報告

本研究科では、大学院教育の改善・充実を図るべく、教育力向上に役立てることを目標に、個別の授業担当教員はもとより、大学院で授業を担当する教員全体で、改善点等をそれぞれが認識し、以後改善を図ることができるよう、授業担当教員による授業報告の提出を全担当教員に求めている。

令和3年度 埼玉学園大学大学院 心理学研究科 教員による授業報告

担当教員：小玉 正博
科目名：臨床心理学特論 I
本講義では、公認心理師が国家資格化された現在を踏まえて、学生が理解すべき課題として、公認心理師法制定の歴史的背景とその内容、公認心理師の職責（心理専門職者の役割、専門性と倫理、課題等）について学んだ。これらの理解を基に、学生との討論を通して、心理的援助を展開する上で求められる考え方や知識、技術について理解し、必要とされる知識と態度の習得を目指した。学生からの応答は概ね期待に添ったものであり、当初の学習到達目標を達することが出来たものと評価できる。
担当教員：藤枝 静暁
科目名：グループ・アプローチ特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）
受講人数が3名であり、グループ体験活動をしたり、共同学習をするにはギリギリであったが、ファシリテーター役、参加者役、オブザーバー役に分かれ、役割を交代しながら、繰り返し学習することができた。 3名とも皆勤で、主体的に参加してくれたおかげで、活気のある授業となった。 社会に出てからも学習内容を生かしていただきたいと思います。
科目名：特別課題研究 I
国内外の先行文献を読み、先行研究の成果と今後の課題を明らかにした。その上で、自らが取り組みたい研究についての予備調査を計画し、研究倫理審査委員会より実施の承認を得た。 2022年2～3月に予備調査を実施し、データを収集した。
科目名：特別課題研究 II
研究目的に応じた質問紙を作成し、研究倫理審査委員会より実施の承諾を得た。幼児を持つ保護者約900名を対象にアンケート調査を行い、約550名より結果を得た。結果を分析し、考察を行い、修士論文にまとめた。2022年2月に修士論文を口頭発表し、質疑への応答を行った。修士論文審査会にて合格の判定を得た。

担当教員：安崎 文子
科目名：障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）
<p>1. 臨床心理学専攻の学生にとっては、臨床という主流の流れからは外れる科目で、興味を持ってもらうことが必要だと考えた。実際の臨床では、何らかの障害をお持ちの方が、症例として圧倒的に多く来られるので、実情を知ってもらいたかった。</p> <p>2. 沢山の症例に出会うことが、何よりも研究の糧であるので、できるだけたくさん症例を紹介したかったが、まだまだ不十分だったと反省している。</p> <p>3. 教師が一人で話し続けることが多かったが、症例紹介や演習を始めると、学生の眼が輝いたので、より多く演習も加えた方が良かったと反省している。今後の改善点としたい。</p>

担当教員：杉山 雅宏
科目名：学校臨床心理学特論
<p>学校臨床心理学という科目の性質上、学校現場で実際に起きている事例を多く紹介し、多角的な課題解決方法を考察できるよう工夫した。</p> <p>大学院生が実際に中学生、高校生であった頃の実情を振り返っていただき、比較検討した。</p>
科目名：臨床心理面接特論Ⅱ
<p>インテーク面接の方法と留意点、アセスメント面接、治療契約の方法と留意点など、臨床現場での実践力を強化するための基礎基本を教授した。</p> <p>医療、教育、福祉、産業などの臨床現場での実践事例も多く紹介し、ディスカッションをした。</p>
科目名：特別課題研究Ⅰ
<p>指導学生のテーマに沿って、修士論文作成に求められる研究スキルの習得を図るべく、文献購読を中心に講義を進めた。</p> <p>具体的には、文献検索能力と文献レビュー能力の開発、研究課題に関連する最新の専門知識及び研究方法の習得を目指した。</p>

担当教員：川久保 惇
科目名：産業組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）
<p>【特に心掛けてきたこと】</p> <p>大学院で開講されている講義であるため、教員が一方的に講義するのではなく、受講生が各自で事前に纏めてくる資料を題材に講義を進めた。全ての受講生が半期の間で、複数回発表する機会が得られるよう調整した。</p> <p>【改善・工夫したこと及び特筆すべき事項】</p> <p>少人数で行う講義であったため、各受講生のニーズに合わせたテーマを取り上げることができた。また、修士論文作成に役立つ内容をできる限り取り上げることを心掛けた。</p>

担当教員：遠藤 寛子
科目名：臨床心理実習Ⅱ
<p>ケース・カンファレンスでの事例発表に際して、事例発表の留意点、資料作成のポイントを指導し、発表前事前指導ならびに事後指導を行った。また、臨床心理カウンセリングセンターで担当した1事例について心理面接経過をまとめ、事例報告あるいは事例研究レポートを作成し、ケース・カンファレンスで発表および検討を行うことを最終課題とした。教員が心掛けてきたことは、事例理解、事例報告（研究）の観点、事例報告（研究）レポートの作成方法について具体的な事例を挙げつつ指導したことである。全体的な指導は担当教員で行い、細かな指導は臨床指導教員が担う形で協同して進めた。</p>
担当教員：佐々木美恵
科目名：臨床心理学特論Ⅱ
<p>精神分析的アプローチの理論、方法論について、できる限り実践に即して伝え、院生自身のケースワークに生かせるように努めた。</p> <p>教員の事例を報告し、精神分析的心理療法の理論と実践が結びついて理解できるように心がけた。</p> <p>臨床心理学の種々の今日の問題を取り上げ、各自が心理支援専門家としての見解や視点をもてるようにファシリテートした。</p>
科目名：臨床心理基礎実習Ⅱ
<p>心理面接の一連のプロセス（インテーク、アセスメント、治療契約、面接記録作成）について、教員の実践的手法を織り交ぜながら実践的に指導することを意識した。</p> <p>臨床実践における各自の課題を明確にし、学内外実習への導入となるような指導を心がけた。</p>
担当教員：羽鳥 健司
科目名：臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）
<p>心理療法に関する主な理論や方法を網羅的に学習できるようところがけた。使ったテキストの内容が少しボリュームがありすぎたため、次年度以降は教員の方で内容を絞っていきたい。</p>
科目名：心理療法特論
<p>受講生が今後認知行動療法をクライアントに提供することになった際に、専門書等で独学では学習できない、全ての認知行動療法プログラムに共通する基礎的な事項を体験的に学習できるよう心がけた。講義の方式自体を認知行動療法で実施される心理教育的に実施することで、受講生がクライアント体験をできるようにした。受講生からの評価は概ね好評であり、次年度も基本的な講義の進め方は今年度と同様にしたいと考えている。</p>
科目名：臨床心理実習Ⅰ（心理実践演習）
<p>本科目は公認心理師および臨床心理士受験資格取得のための中核的な科目である。受講生の受験資格取得に向けて不足のないよう科目担当教員のみならず研究科の教員および学外の実習担当者や施設長と怠りなく密な連携をした。今年度も受講生の心理臨床技能や心理臨床家としての人格を研鑽できるよう厳しさと暖かさを両立した教育の提供を心掛けた。</p>

令和3年度埼玉学園大学大学院 心理学研究科 教員による授業報告

担当教員：米村 朋子
科目名：データ解析法特論
<p>今年度は、急遽オンライン授業対応となったため、従来の授業方式を変更した。変更した内容としては、主な統計手法である記述統計、統計的仮説検定、t検定、分散分析、重回帰分析、因子分析について受講者自身が説明資料をつくり他のメンバーに講義を行ってもらった。学部時代は講義を聴く立場であったが、大学院では他者に教える立場を経験することで、他者に教授するためには心理統計についての十分理解が必要となる。負担感が大きかったが、受講者はオンライン授業にもかかわらず丁寧な資料づくりと説明が行うことができていた。授業の後半は、デモデータを使用して、共分散構造分析、確認的因子分析、効果量、メタ分析といった学部では経験していなかった統計手法について実習を行った。また、研修者としての倫理観を育成するため、研究倫理や研究倫理申請の講義、研究倫理Eラーニングの受講を経験してもらった。この経験が修士論文の作成に役立てられると思う。</p>
科目名：臨床心理学研究法特論
<p>本科目は、心理臨床の場で出会う多様な事例を的確に捉え、理解し、表現するために必要な「質的研究の方法論」を習得及び向上させることを目的として、資料講読・発表を行う演習を中心に実施した。シラバスをベースに、学生のレベルに対応した内容に随時修正を加えながら、質的研究で良く用いられる代表的な手法の基本を学び、その上で関連の研究論文に触れることで、研究の応用力を身に付けてもらうような演習とした。結果、学生の積極的な参加が得られ、課題（プレゼン）の評価も含め、到達目標の80%以上が満たせたと考えている。</p>
担当教員：伊里 綾子
科目名：臨床心理査定演習Ⅱ
<p>本授業ではロールシャッハ・テストの実施法および解釈について指導した。授業を通して、ロールシャッハ・テストのみにとどまらず、心理アセスメント全般に共通して求められる、コミュニケーション技法や、被検者の認知や言語表現の特徴の捉え方を身につけられるようにすることを意識した。また、受講者自身に被験者体験をしてもらうことで、心理検査を受けることが、クライアントにとってどのような経験となるのかを体験的に理解できるよう工夫した。</p>
担当教員：泉水 紀彦
科目名：健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）
<p>公認心理師の業務の一つである「心の健康教育」に関する様々な知識や実践を行う科目であった。ストレス対処やCBTに代表されるストレスマネジメントや、リラクゼーション、自律訓練法、マインドフルネスを体験的に学び、自身でも説明できる力をつけてもらった。また、ペアレントトレーニング、精神疾患への理解(心理教育)、自殺企図や自傷行為への対応の内容を授業で紹介した。</p> <p>実際に、現場では公認心理師としてストレスマネジメント講座の講師を担当することが多い。そのため、本授業では最後に学部3年生を対象に、受講生が講師になり、ストレスマネジメント講座を行ってもらった。準備は大変だったかもしれないが、体験的に学ぶことができたと考えられる。</p>

担当教員：山本 晴義
科目名：心身医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)
受講生全員が、オンラインの授業であったが、熱心に受講してくれた。質疑応答もスムーズで、自分の考えをきちんと述べ、教師に的確な質問をしてくれた。 院生が将来、臨床心理士、公認心理師として、活躍するための最低限の心身医学的知識を提供することができた。

担当教員：柴田 勲
科目名：精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)
受講者の学習意欲を高める為に初回の講義の際、関心のある分野について聞き取りを行い、そこに関してはより深い内容で講義を行った。実際には薬理と認知症に関する関心が高く教科書には記されていない臨床現場での生の話を絡めながら包括的な講義を行った。アンケートからも受講者の満足度は高かったと思われる。他の分野に関しても我々の身近で起こっている事柄と関係付けながら講義を行った。来年度も同様に受講者のニーズにあった講義に努めたいと考えております。

6 研究発表会及び意見交換会

大学院担当教員相互の研究交流を図るとともに、学生及び教員との意見交換の場を設け、今後の大学院の教育研究活動の活性化に資することを目的として次の研究発表会及び意見交換会を実施している。

6-1 研究発表会

日時：令和3年9月15日(水) 11:00~12:00 (講演40分、質疑応答20分)
場所：埼玉学園大学3号館 3階403教室
参加者数：12名(専任教員9名、大学院生3名)
内容：発表者：安崎 文子 教授
テーマ：「脳機能障害としての発達性吃音」

6-2 大学院専任教員と大学院生による意見交換会

日時：令和3年10月27日(水) 16:10~16:30
場所：埼玉学園大学3号館 3階 心理学実験実習室
参加者数：17名(教員12名、大学院生5名)
内容：院生からの主な意見
・講義は少人数での受講なので、質問がしやすく、充実しています。
教員の主な意見
・修士論文の作成と実習がありますが、計画的に進めていってください。

7 論文審査について

本大学院心理学研究科では、修士論文作成過程において、1年次の秋期に構想発表会、2年次に2回
の中間報告会を実施することとしている。各個別報告の詳細は次の通りである。

令和3年度の報告会及び最終試験は以下の内容にて行った。

7-1 修士論文中間報告会

(1) 第1回修士論文中間報告会(2年次生対象)

日 時：令和3年5月27日(木) 10:30~11:50

場 所：心理学実験実習室

【第1回修士論文中間報告会】(1人当りの発表15分・質疑応答20分)

時間	発表者	指導教員
10:30~10:40	研究科長挨拶	
10:40~11:15	20MP0002 佐藤友理恵	藤枝 静暁
11:15~11:50	20MP0004 森谷 太一	小玉 正博
11:50~12:00	講 評	

(2) 修士論文構想発表会・第2回修士論文中間報告会(1年次生・2年次生対象)

日 時：令和3年10月27日(水) 修士論文構想発表会 13:00、第2回修士論文中間報告会 14:50

場 所：埼玉学園大学3号館 心理学実験実習室

【修士論文構想発表会】(1人当りの発表15分・質疑応答15分)

時 間	発表者	指導教員
13:00~113:05	心理学研究科長挨拶	
13:05~113:35	20MP0001 池田 美涼	杉山 雅宏
13:35~114:05	21MP0001 関 彩里	杉山 雅宏
14:05~114:35	21MP0002 宮崎 晃平	藤枝 静暁
14:35~114:40	講 評	

【第2回修士論文中間報告会】(1人当りの発表20分・質疑応答15分)

時 間	発表者	指導教員
14:50~15:25	20MP0002 佐藤友理恵	藤枝 静暁
15:25~16:00	20MP0004 森谷 太一	小玉 正博
16:00~16:05	講 評	

7-2 学位論文発表会及び最終試験

日 時：令和4年2月10日(水) 11:00～12:30

場 所：心理学実験実習室

【学位論文発表会及び最終試験】(口述試験を兼ねる)

時 間	発表者	指導教員	研究テーマ
11:00～11:25	20MP0002 佐藤友理恵	藤枝 静暁	母親を対象とした子ども時代のポジティブな経験と状態被援助志向性の関連に関する調査研究 ー育児感情、ソーシャルサポートを媒介変数としてー
11:25～11:50	20MP0004 森谷太一	小玉 正博	対人関係における適応的な諦めが問題への直面化と精神的健康に及ぼす影響
12:00～12:30	審査委員会(心理学実験実習室)		

8 おわりに

本年度も無事に7回目の修了生を送り出すことができた。この間の取り組みの成果については、掲載されている学生の授業評価や教員の授業報告にも見る通り、概ね満足の得られる大学院教育が達成できていると評価できる。修了生たちが臨床心理士および公認心理師として現場で活躍し始め、少しずつではあるが、埼玉学園大学のキャンパスに臨床心理学研究と実践の文化が根付きつつあるという感触を得ている。教員自身の研究活動の面でも、特に若手教員を中心に、より活発な研究成果が得られる展開を期待している。

修了生全体の臨床心理士資格取得率は8割以上を超えていること(臨床心理士(合格者22/受験者25))、また公認心理師の合格者も例年輩出している(公認心理師(合格者23/受験者24))ことから、今後も、教員を中心に、今まで以上に積極的に受験準備の支援を行い、在学中から院生が臨床心理士受験および公認心理師受験に向けて必要十分な専門知識と援助スキルを習得できるように指導を徹底していきたい。

埼玉学園大学大学院FD委員会規程

平成22年 5月12日制定

(目的及び設置)

第1条 本大学院に、授業内容及び教育方法を改善し、その質的充実を図るとともに、教員の教育力の向上に資すること（Faculty Development。以下「FD」という。）を目的とし、FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任 務)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について組織的な推進を図ることを任務とする。

- (1) FD活動の企画立案に関すること
- (2) FD活動に関する情報収集及び提供に関すること
- (3) FD活動についての評価及び報告書の作成に関すること
- (4) 学長の諮問した事項に関すること
- (5) その他大学院のFDの推進に関すること

(組 織)

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 研究科長
- (2) 専攻主任
- (3) 専任教員のうち、研究科委員会より選出された教員 若干名

(任 期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員長は研究科委員会の議を経て、学長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(会 議)

第6条 会議は、過半数の委員の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会は、必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(事 務)

第8条 委員会の事務は、事務局教務課において処理する。

附 則

1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。

2 この規程施行後、最初に就任する委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成23年3月31日までとする。

授業についてのアンケート（講義科目、研究指導科目）

科目名（ ）

教員名（ ）

月 日 曜日 時限実施

※上記、記載漏れがないようお願いします

大学院の授業の質的向上のために、アンケート調査を行います。下記質問について、自由に記述してください。なお、このアンケートが成績評価に影響することは一切ありません。

1. この授業を履修した理由は何ですか？
2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか？
3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。
4. この授業について、要望があれば記入してください。

ご協力ありがとうございました。

参考資料3

教員の授業報告

心理学研究科
職 名
氏 名

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、 改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)